

平成 28 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立東柏ヶ谷小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・毎日、朝食を食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 前年度と同様に基礎的な漢字の読み書きはよくできます。
- 設問にある文章の文脈や質問の意図を読み取り答える問題は、よくできます。
- 目的に応じて、図と表を関係づけて読むことができます。

《努力を要する所》

- 「相談」という漢字を正しく書くことに課題があります。
- 平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて、文章の表現方法を的確に押さえながら設問に答えることができます。
- 見出しの表現の工夫についての説明として、適切なものを選択することができます。
- 実体験に即した学習に関しては、正答率が高く、自信を持って答えることができます。

《努力を要する所》

- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題があります。
- 文章と図を関係づけて、自分の考えを書くことに課題があります。さらに、そこからよりよい考えを持つことにも課題があります。
- A B問題とも、選択問題より記述式の設問の正答率が低い傾向があります。

これまでの取組から

- 今まで通り、学習のめあてや設問の意図を書くということを明確に提示していきます。
- 語彙力を豊かにするために、前年度と同様、授業の中で国語辞典や漢字辞典を活用していきます。



今後の具体的な取組について

- 文章を読んだり、相手の話を聞いて質問したりする機会を増やしていきます。
- 社会科や総合的な学習の調べ学習で、パソコンを使う機会を捉え、ローマ字を使う場面を増やしていきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 整数同士の2つの数を比べて、不等号を用いて大小関係を表すことができます。
- 数直線を使って、1を超える割合を百分率で表すことができます。
- 三角形の面積を求める場面の、底辺と高さの関係について理解しています。

《努力を要する所》

- 割り算の計算の性質を用いて、計算する力に課題があります。
- 直方体における、面と面の位置関係を理解することに課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された図や情報をもとに立式し、答えを導き出すことができます。
- 表の数値を読み取ることができ、必要な情報を収集し判断することができます。

《努力を要する所》

- 三角定規の角度に着目して、論理的に考察することに課題があります。
- 示された式について、式の意味や数値の意味を解釈することに課題があります。

これまでの取組から

- 計算の基礎基本をしっかりと身につけることを大切にしてきました。
- 具体物を活用したり実際に操作したりするなど、「算数的活動」を取り入れた授業を進めてきました。

今後の具体的な取組について

- 四則計算は、低学年からの積み重ねです。今後も、基礎基本をしっかりと身につけることを大切にしていきます。
- 答えを求めるだけでなく、立てた式の意味や数値の意味を説明する活動を積極的に授業に取り入れていきます。
- 何が問われているかを理解するまで、根気強く取り組む姿勢を身につけられるよう取り組んでいきます。
- 具体物を活用したり実際に操作したりする活動を取り入れ、図形に対して実感をもって理解できるような授業を進めていきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○「1日にどれくらい勉強していますか。」の質問では、学校の授業以外に自主的に学習に取り組んでいる時間が、全国平均を上回っています。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問でも、「している」と答えた児童が全国平均を上回っています。この結果から、家庭学習が習慣化していることがわかります。

《課題と思われる所》

○「家で学校の復習をしていますか」の質問では、「している」と答えた児童が、18.4パーセントで全国平均を下回っています。予習は「している」と答えた児童が多いので、さらに復習することで学習の定着を図る必要があると考えます。

○感想文・説明文など、「自分の考えを表現することが難しい」と回答している児童が多く見られます。



生活について

《よかった所》

○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問では、85パーセント以上の児童が楽しいと回答しています。

○「朝食を毎日食べていますか。」の質問では、「全く食べていない」と答えた児童が0パーセントでした。ご家庭での良い生活習慣が身につけていることがわかります。

《課題と思われる所》

○地域の行事への参加率が61パーセントです。学校・家庭・地域が協力することは、子どもの成長に大きくかかわると考えます。大人のつながりだけでなく、子どもを中心としたつながりをもつことが今後の課題です。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」の質問でも、「当てはまらない」と答えた児童が多く、関心が少ないことがうかがえます。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問では、過半数の児童が「当てはまらない」と答えています。自己肯定感や表現力を高めるとともに、友達とのよりよい関係づくり、認め合える環境づくりが必要だと考えます。

今後の具体的な取組について

○読書時間は、全国平均を上回っています。今後も引き続き朝読書に取り組み、読書活動の充実を図ることで語彙力や表現力を育てていきます。

○多くの児童が、「自己表現はあまり得意ではない」と感じています。学習活動や行事などの活動を通して、自己表現を高めていくことをめざします。

○本校の特色である地域との連携を大切に、学校・家庭・地域がひびきあい、ともに子どもの成長を支えていきます。

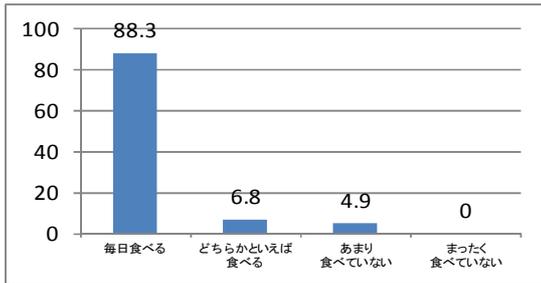
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ始めてみてください。

1 毎日、家で朝食をとりましょう。元気のみなもとです。

昨年同様、就寝時間、起床時間を決め、しっかりと朝食をとって学校に登校させてください。

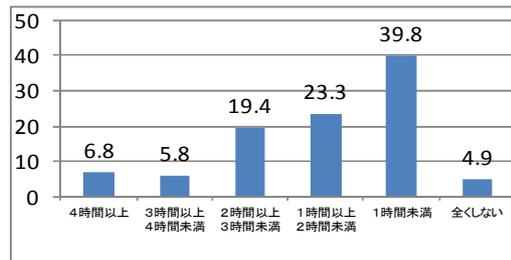
朝食を毎日食べていますか。



2 家庭でルールを決めましょう。

2・3時間以上ゲームをしている児童が多く見られます。ご家庭でのルールづくりにご協力をお願いします。

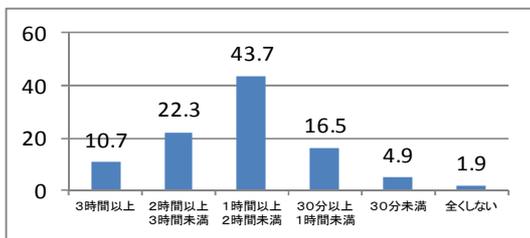
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭での学習習慣をつけましょう。

学習時間の目安は10分×学年です。子どもたちに学習の習慣が身につくように見守ってください。

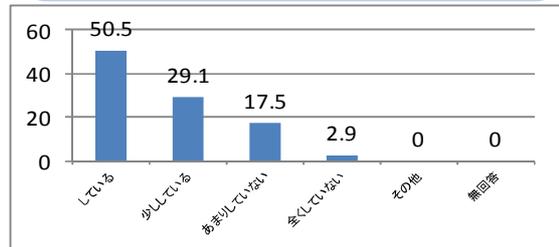
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれぐらいの時間勉強しますか。(学習塾等含む)



4 家庭でのコミュニケーションづくりを大切にしましょう。

家庭でのコミュニケーションは必要不可欠です。学校の出来事について話す時間をつくりましょう。

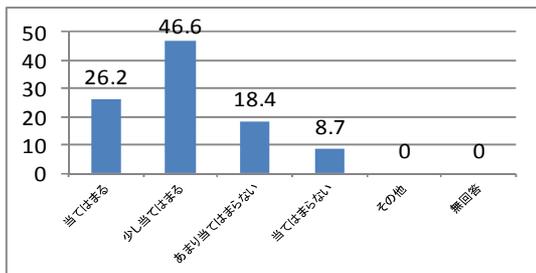
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



5 できるようになったことや、やさしい心が見えたらほめましょう。

自分のよさがわかったり、自信をもったりすることで、様々なことが飛躍的に伸びていきます。

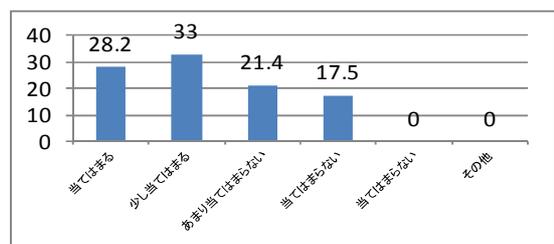
自分にはよいところがありますか。



6 住んでいる地域の行事に参加しましょう。

地域の行事に参加する児童が減ってきています。子どもを知ってもらうことで安全も守られます。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





開校40周年キャラクター「うさよん」

平成 28 年 11 月